



只見町ブナセンターだより

只見町ブナセンターには、今年も紅葉の時期にたくさんの来館者がいらっしゃいました。これから厳しい冬に入りますが、様々な行事を用意し、みなさまをお待ちしております。

【企画展・講座】 昔の写真からみた只見町



2015年10月3日(土)~12月14日(月)

明治末期から昭和までのおよそ80年間に只見町のいろいろなものが大きく変わりました。この企画展では、只見町の施設や町民から貴重な古写真をお借りし、その時々の様子を写した写真をパネルで紹介しています。その瞬間と背景に思いを馳せながら只見町の昔を眺めてみませんか。

【ブナセンター講座】 座談会 只見町の昔を聞く

話し手 菅家 誠也 氏 (只見)、飯塚 恒夫 氏 (坂田)、星 文孝 氏 (黒谷)

企画展に併せて、昔の写真からみた只見町について座談会形式の講座を行います。町の方3名をお招きし、昔の写真を見ながら、撮影された当時の只見町の詳しい様子や現在との違いなどをお話しいたします。

日 時 2015年12月5日(土) 午後1時30分~午後3時

場 所 只見町ブナセンター 休憩室 ※聴講には入館料が必要です

次回【企画展】 只見町の生物多様性を考える

2015年12月19日(土)~2月29日(月)

生きものたちの豊かさを示す指標である生物多様性は、私たちの生活を考える上で、現在では欠かせない視点となっています。今回の企画展では、只見町の自然について生物多様性の視点から、パネル展示や標本展示を行います。

【ブナセンター講座】 自然の恵みの活かし方

— 今までもユネスコエコパーク登録後も —

講師 松田 裕之 氏 (横浜国立大学大学院 環境情報研究院 教授)

生態系管理や資源管理を専門とする松田裕之氏をお招きし、お話いただきます。

日 時 2015年12月19日(土) 午後1時30分~午後3時

場 所 只見町ブナセンター セミナー室 ※聴講には入館料が必要です

【平出美穂子料理教室】 只見町の食材を食べる！

塩干しワラビやソバ、クルミといった只見町の食材を使った料理教室を行います。塩干しワラビの創作レシピ、青菜のくるみ和え、兵糧丸、会津の蕎麦粕寒天を作ります。

講 師 平出 美穂子 氏（郷土料理研究家）

日 時 2015年11月23日（月・祝）午前10時～午後1時

場 所 只見町ブナセンター 休憩室

参加費 1000円（保険料、材料費、入館料含む）

定 員 10名※事前申し込みが必要です

持ち物 エプロン、三角巾、手ぬぐい、箸

申込・お問い合わせ 只見町ブナセンター 0241-72-8355

===== 活 動 報 告 =====

【ブナセンター講座】2015年10月24日(土)

「ニセアカシアの生態と管理－外来種の脅威」

ニセアカシアは、ハリエンジュとも呼ばれる高さ15mほどになる落葉高木で、本来は日本に生育せず、人の手によって持ち込まれた外来種です。本講座では、このニセアカシアが分布域を広げている水辺林に関する専門家である崎尾均氏（新潟大学農学部教授）を講師にお招きしました。



講師の崎尾均氏

ニセアカシアの全体的な説明のあと、本種が日本で広がっている理由が説明されました。ニセアカシアは、本来の生育地である北米では、野火の刺激で種子が傷つき発芽します。日本では野火はほとんどありませんが、河川敷の野焼きや大水の際の刺激で発芽が促進されることが実験から明らかになったそうです。崎尾氏いわく、ニセアカシアは火だけでなく、水も味方につけたのです。その後、ニセアカシアの管理方法について説明がありました。在来の亜高木が存在する上流域では、一度の伐採でニセアカシアを除去することができます。ニセアカシアだけの林の場合、幹回りの樹皮を環状に剥ぐことで枯死させる方法と年3回程程度の刈り払いを数年続けて行う方法が有効だということでした。

只見町にはすでにニセアカシアが侵入していますが、ヤナギ類と共存しており、実生が少ないことが調査でわかりました。これは、毎年起こる融雪洪水により定着や成長が抑制されているためという可能性があります。今後の対策として、ニセアカシアをこれ以上植栽しない、積極的に除去する、河川幅を広くとるといった方法が提案されました。いずれにしても、養蜂やバイオマス燃料として有効に活用できる可能性を秘めた植物であるため、地域における合意形成が重要だということでした。

町内を中心に16名の方にご参加いただき、崎尾氏の研究の歴史などを交えて、楽しく、そしてとてもわかりやすくお話しいただきました。

【自然観察会】2015年10月25日(日) 「伊南川の河畔林を観察しよう！」

前日の講座に引き続き崎尾均氏に指導・解説をしていただきました。只見町の河畔林の自然植生であるヤナギ林とそこに侵入したニセアカシアを、伊南川沿いに移動しながら数か所で観察しました。観察会には16名の方がご参加くださいました。



川沿いのニセアカシア林を観察

伊南川上流部には、治山のためにニセアカシアが植栽されている場所があります。当日は、上流部のそのニセアカシア林から観察をはじめました。ここでは、多くのニセアカシアは葉を落としており、種子をたくさん着けているのが目視でも確認できました。ニセアカシアの種子は河川などを流れて生育範囲を拡大するので、この場所が種子供給源のひとつになっている可能性が考えられました。次に、下流に移動し、中州に生育したニセアカシアを観察しました。

河川を通じて侵入した個体以外にも、道路際に植栽されたものや搬入された土に含まれた種子から発生したと考えられる個体(ロックシェッドの上)もありました。さらに下流の塩ノ岐川の合流点には、ニセアカシアの大きな群落があります。その近くには、伐採された後に一斉に萌芽を生じ、一面にニセアカシアが生育している場所がありました。伊南川沿いに複数箇所観察することで、ニセアカシアがどのように侵入し、数を増やしているのかを確かめることができました。



現在と大雨前の河畔林を写真で比較

最後にユビソヤナギとシロヤナギの林を観察しました。ここは9月の大雨で流木や土砂が流れて大きく地形が変わっていました。大雨以前の写真を見比べることで、大雨前に下層に生えていた草本やヤナギの多くが土に埋まってしまったことを確認できました。ヤナギが生育するような河畔林では、護岸が整備される以前は今回のような攪乱が短期的に起こっていました。そのため、ヤナギは短期間で更新して、大木になることは少なかったようです。

ニセアカシアの侵入状況と只見町の河畔林がおかれている状況を観察したことで、河畔林を守っていくことの重要性を再確認できました。

**【町外展】2015年11月6日(金)～9日(月) 三条市(燕三条地場産業振興センター)
ユネスコエコパーク登録地「自然首都・只見」展**

新潟県三条市の燕三条地場産業振興センターにおいて、4日間の日程でユネスコエコパーク登録地「自然首都・只見」展を行いました。期間中は約400名の方々にご来場いただきました。過去に只見町に住んでいた方など、只見町と縁のある方々も多く来場して下さいました。

只見の自然や文化を紹介するパネルの他に、昔から使われてきたマタタビなどのザルやカゴを展示しました。特に植物を材料としたカゴに興味を持たれる方が多く、ヒロロやウルシなど様々な植物を用いて作られていることに驚かされていました。

7日の講演会「只見町の自然と暮らし」では、遠藤菜緒子ブナセンター学芸専門員が、只見町の自然の特色とその自然の中での人々の暮らし、八十里越を通じた昔からの只見町と三条市の交流を紹介しました。講演会には32名の方々が参加し、会場は満員でした。

近いようで遠い三条市の方々に、只見町の自然や文化、そしてブナセンターを知ってもらう良い機会になりました。



展示会場の様子



満員の講演会会場

**【只見ユネスコエコパーク講演会】2015年9月10日(木)
「新安多島海生物圏保存地域（韓国）の自然と文化」**

日本での留学経験がある洪善基氏（木浦大学校）は、韓国に六つある生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）のうちの一つについて日本語で紹介されました。韓国の西側の海岸線には多くの島が点在し、干潟があり、独特の景観が広がります。南端に近い木浦（モッポ）市の沿岸周辺は、新安多島生物圏保存地域として登録されました。埋め立てた場所は農地として利用され移行地域に位置づけられ、干潟の部分が核心地域です。主な産業は海での海苔の養殖や漁業で、食事には様々な海産物が供されます。登録以来、民泊をするエコツアーが盛んになったそうです。また、塩や干物には登録地の



講師の洪善基氏

の産品を示すラベルをつけて販売し、価値が上がりました。若い人が中心となって地域の暮らしを盛り上げています。洪氏は、新安多島海と只見町は経緯も自然環境も全く異なりますが、生物圏保存地域としてネットワークを作って交流を深めていくことが大切です、と話を結びました。

【ユネスコエコパーク国際交流事業】2015年10月18日(日)

「台湾原住民の伝統的な天然資源の利用」

本講演会では、只見町と同様に天然資源を利用した伝統的な生活を受け継ぐ台湾の原住民（先住民）について、台湾林業試験所の汪大雄氏にお話しいただきました。



講師の汪大雄氏

台湾政府は、漢民族が進出する17世紀以前から台湾に住んでいた先住民を「台湾原住民」として指定しています。彼らの歴史は、およそ8千年に及びます。台湾は、九州ほどの大きさの島ですが、中央から東部にかけて3,000メートル級の山々が連なる山地となっています。この山岳地帯を中心に16の原住民族（ひとつは海洋民族）、台湾総人口の2.3%を占める約54万人が生活しています。歴史的には、明朝、オランダ、清朝、そして日本の植民地支配を受けてきました。

近年では、中央原住民族委員会という独自の行政が設立され、原住民向けの専用テレビ放送が行われるなど、その存在が国内で認められるようになりました。

原住民族の天然資源利用については、そのひとつアタルヤ族では、竹の利用が特徴的で、タケノコを食物とするほか、家の材料、伝統工芸などに利用していることが紹介されました。ヤミ族は、台湾原住民唯一の海洋民族で、トビウオ漁を盛んに行い、高度なカヌー作りの技術を持っているそうです。他の民族についても、民族特有の食物、住居、衣料、楽器、狩猟、薬、燃料など天然資源の採取、利用例を教えてくださいました。

質問時間では、日本ではほとんど食べられていないベニバナボロギク（昭和草と呼ばれる）をどうやって食べるのか、原住民に関する博物館はあるのかといった質問ができました。町内を中心に26名の方が聴講し、台湾原住民の伝統的な天然資源利用の話聞くことで、只見町の伝統的な生活・文化を再認識するよい機会となりました。

【ユネスコエコパーク事業】2015年11月14日(土)

「檜枝岐歌舞伎 只見公演」



只見小学校体育館が歌舞伎の舞台に

只見ユネスコエコパーク登録一周年記念として、伝統文化「檜枝岐歌舞伎」を開催しました。檜枝岐村は、その一部が只見ユネスコエコパークとして登録されています。檜枝岐村では、歌舞伎の伝統文化を守ることで集落のきずなを守ってきたのだと町長から説明がありました。演目は、「玉藻前旭の袂 道春館の段（三段目）」で、千葉之家花駒座をお招きし上演していただきました。

会場には、町民を中心におよそ300名の方がご来場くださいました。舞台上で繰り広げられる一周年記念にふさわしい華やかなお芝居を、町民のみなさんが食い入るように見入っていました。これから冬を迎える只見町の束の間の憩いになったのではないのでしょうか。

【虎ノ門生態学研究会の合宿式勉強会】2015年10月10日(日)～12日(月) 「自然首都・只見」学術調査研究助成による研究集会

虎ノ門生態学研究会は37年間、毎月東京で研究会を行う生態学を志す所属不問の集まりで、関東地方の大学の学生や先生、研究所員など様々な方が参加しています。先日、只見町で合宿形式の勉強会を行いました。その報告を会の代表の小作明則氏（進化生物学研究所）がお寄せ下さいました。

昨年に続き只見町の学術調査研究助成金を得て、只見町で公開講演会と各自の研究発表会、自然観察会を行った。

初日は5演題からブナ林の生物多様性を多面的に理解する構成の「ブナ林の自然史—生物多様性とその周辺—」と銘打つ公開講演会を開催、町の方々と虎ノ門研究会会員合わせて約35名が参加した。まず、鈴木和次郎ブナセンター長が講演「豪雪地帯におけるブナ天然林の構造と動態」で、豪雪地帯であり急傾斜地である只見町のブナ林の特性について解説した。ついで平山良治氏（埼玉県立川の博物館）



公開講演会の様子

が講演「ブナ林を支える土」で生物因子としての地上植生と土壌生成の結びつきと土壌生成の過程の解説をした。続いて新島溪子氏（森林総研OG）が講演「ブナ林の土壌動物」で、土壌生成にかかわる土壌動物（ミミズ、ダニ、ヤスデなど）の土壌有機物分解者の生態や役割をビデオ上映を交えて解説した。4題目は、紺野由佳氏（茨城大学大学院）が講演「外来植物の侵入と駆除」で、外来植物とは何か、それが侵入することで生じる問題を解説した。外来植物が侵入した場合の対応方法についても実例を挙げた。最後にブナセンターの遠藤菜緒子氏が講演「野鳥に見る只見町の自然」で、只見町のブナ林を含めた自然環境の中に生息する野鳥の様子や、只見町で目にする野鳥相の豊さを解説、さえずりの録音再生も交えた。

2日目は、町の方の参加も得て、各自の研究発表の発表会を行い、合間に只見町ブナセンターを見学した。各自の専門分野は異なり話題は多岐にわたり、質疑応答は白熱した。

3日目はブナ林を観察しながら鈴木和次郎氏から森林構成の解説、平山良治氏から土壌の解説を受けた。日頃の研究活動では経験できない貴重な体験をすることができた。



ブナ林のエクスカージョン

【企画展を見よう！】

「季節とともに生きる 只見の野鳥とその生態」 2015年5月29日

「只見町のブナの森-ブナの生態から利用まで」 2015年8月30日

友の会の要請を受けて、今年度前半には二つの企画展について「企画展を見よう！」を開催しました。5月29日には遠藤菜緒子学芸専門員が企画展「季節とともに生きる 只見の野鳥とその生態」を案内しました。また、友の会会員からのリクエストに応じて、新国万寿美主事（役場兼務）がユネスコエコパーク登録1年経過を説明しました。8月30日には、「只見町のブナの森-ブナの生態から利用まで」を河原崎里子館長が案内しました。各会の参加者は10名ほどの少人数ですが、話しやすい状況で、いろいろな質問や話題がとびかいました。



なごやかな雰囲気の会

【消防訓練】ブナセンターで消防訓練を行いました 2015年9月4日(金)

只見町ブナセンターでは、毎年多くの来館者をお迎えしています。その安全を確保するために、消防署の指導のもと避難訓練を行いました。ブナセンター内倉庫より火災が発生したという設定で、避難誘導等を行いました。スタッフは、大声で「火事だ！」と叫びながら火元と想定した場所にむかって消火器を構え、真剣に取り組みました。その後、消防署の方から講評をしていただきました。また、訓練用の消火器を使用して消火訓練も行いました。実際に避難誘導などを行ってみることで、想定される問題点を確認することができ、有意義な訓練となりました。

【連載：世界のBR (Biosphere Reserves: 生物圏保存地域) No.6】

ユネスコエコパークというのは日本国内の呼び名で、国際的には生物圏保存地域 (Biosphere Reserve: BR) といいます。現在、120カ国に651のBRがあります。ここでは、海外のBRをシリーズで紹介します。2014年6月に只見町や南アルプスと同時に海外では11の地域がBRに登録されました。前回に引き続きそのうち1つのBRを紹介します。

Mount Chilbo (北朝鮮の七宝山)



国の北西部に340ヘクタールのBRが位置し、ここは多様な生物の宝庫です。朝鮮半島の16種の固有植物や30種の絶滅危惧の植物や動物、132種の薬草や数種の山菜や野生の果実があります。農業や漁業、観光が主要な産業です。観光客を魅了するこの地は、年々、観光客を受け入れる設備が整ってきています。

*この記事は以下のユネスコのホームページに基づいています。このホームページから各BRの写真を見ることができます。もちろん、只見も載っています！

<http://www.unesco.org/new/en/media-services/multimedia/photos/mab-2014/>

【お知らせ】只見町の自然や伝統文化の情報を集めています！

只見町ブナセンターは、只見町の自然や伝統文化について調査研究を行い、付属のミュージアムでの展示解説や様々な媒体を使った情報発信を行っていくことを目的としています。そこでブナセンターでは、只見町の自然や伝統文化についての情報を積極的に集めています。見たことのない鳥がいた、巨木を伐採する、古い家を壊す、狩猟や採集に関する昔のことを知っている人がいるといった情報をお持ちの方は、ブナセンターまでご連絡くださるようお願いいたします。

連絡先 只見町ブナセンター 0241-72-8355

【只見町ブナセンター 2015年度の後半の行事予定】

開催時期	行事名	備考
10月3日(土)～ 12月14日(月)	【企画展】 昔の写真からみた只見町	町の皆様にお借りした写真が、ありし日の只見町を語ります。
11月23日(月・祝)	【平出美穂子料理教室】 只見の食材を食べる	講師：平出 美穂子 氏（郷土料理研究家） 只見町の食材を使った、伝統料理と創作料理を作ります。
12月5日(土)	【ブナセンター講座】 只見町の昔を聞く	企画展に併せて、昔の写真からみた只見町について座談会形式の講座を行います。
12月19日(土)～ 2016年2月29日(月)	【企画展】 只見町の生物多様性を考える	よく耳にする「生物多様性」とは何でしょうか？なぜ重要なのでしょうか？
12月19日(土)	【ブナセンター講座】 自然の恵みの活かし方—今までもユネスコエコパーク登録後も—	講師：松田 裕之 氏（横浜国立大学）
2016年3月～5月	【企画展】 春植物の生活史	雪が解け一斉に春植物が咲き始めるのが只見町の魅力です。春植物の生態に迫ります。
3月13日(日)	【ブナセンター講座】 葉と花の戦略と絶滅危惧種の保全	講師：鷺谷 いづみ 氏（中央大学）

※会場の表記がない行事は、只見町ブナセンターで実施します

【編集後記】只見町では紅葉も終わり、山の上は冬の様相になりつつあります。このブナセンターだよりを書いている間にも、冬の足音は山の上や幽かな谷から近づいてきます。美しくも厳しい冬はもう間近です。

発行 **只見町ブナセンター** 〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地

開館時間：午前9時～午後5時（最終受付は午後4時まで）

休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）

入館料：高校生以上 300円 小中学生 200円 未就学児無料（20人以上は団体割引）

電話 0241(72)8355 **ホームページ** <http://www.tadami-buna.jp>

FAX 0241(72)8356 **電子メール** info-buna@amail.plala.or.jp

